

ビジターセンターがリニューアルしました！



飲み物と軽食の販売も始めました。ハイキングや温泉巡りの後にほっと一息、なんていかがでしょうか？都合により飲み物はホットのみですがご容赦ください。（湯元は寒い時期が長いからきっと大丈夫・・・）テイクアウトもできます。軽食のクッキーはお土産としても大人気！

- ・コーヒー、紅茶：200円
- ・緑茶：150円
- ・クッキー（5枚入り）：100円×5種

遊びに来てね～。

森のギャラリー企画展「神話と星座と虫の名と」

期間：2019年11月9日～2020年1月26日

ギリシャ神話に登場する神々の名と、昆虫の学名や星座の名前が関連付けられた標本の企画展。
これを機に、神話のロマンに想いを馳せながら星空を眺めてみてはいかがでしょうか。

11月9日（15時～）には、「日本アンリファープル会」の新都公亮氏を講師に迎え、展示に関する講演会も開催！

奥日光の自然情報誌

楓通信 No.138

発行：自然公園財団日光支部

TEL：0288-62-2461

2019年 9月初旬発行

季刊 無料

次号2019年11月初旬 発行予定

8 楓通信 “19年9月-11月号

『楓通信』購読料について

「楓通信」133号（平成30年6月発行）より、本誌を無料とさせていただきます。133号以降の新規購読料金は2年単位（発行数8部）で1,000円（送料・手数料・税込）となります。

134号以降にお申込の方にはバックナンバーの送付にて対応させていただきます。

不明点や質問がございましたら、楓通信担当まで連絡くださいますようお願い申し上げます。 TEL：0288-62-2461

奥日光の自然情報誌

楓通信

2019年

No.138

9-11月号



撮影場所：湯ノ湖（10月）

今号の特集

その① ビジターセンター所長による日光にゆかりのある植物学者と植物たち

その② 今年は視点を変えてみよう！こんな紅葉の楽しみ方はいかが？

奥日光歳時記

令和元年

夏

日光湯元キャンプ場



日光湯元キャンプ場が最も華やぐ季節がやってきた。おもいおもいに過ごすキャンパーの姿に、待ちに待った夏が重なる。

日光湯元キャンプ場は、広大なテントサイトを有するものの、設備は炊事棟があるだけで極めてシンプルだ。快適なキャンプ場とは言い難いだろう。でも、南には日本百名山の男体山、北には関東以北最高峰の日光白根山に続く前白根山や金精山など 2000m を超える山々の懷にある絶好のロケーション。夕日に照らされ刻々と色彩を変える男体山を望み、夜は漆黒の闇に煌めく星々が降り注ぐ。そして、下界とはかけ離れた冷涼で澄みわたる大気が、人々を魅了し誘う。

「何も無い、だから好きなんだ。」キャンプをされている人の言葉が心に残る。(T. Y)

日光にゆかりのある植物学者と植物たち

文：日光湯元ビジターセンター所長M・S

奥日光は、植物の宝庫です。明治初期から、外国の研究者たちがその豊富な植物相に触れ、採集や研究を行っていました。また、そんな研究者たちに触発され、明治中期から、日本人植物学者による研究も、奥日光で盛んに行われました。今回は、その植物研究についてお話したいと思います。

奥日光の植物研究の歴史は、大きく3つの時期に分けられます。

1. 本草学者（薬のもとになる植物等の研究）による時代（代表的な研究者：小野蘭山・伊藤圭介、植田孟縉など）
2. 外国人学者による研究の時代（代表的な研究者：C.J.マキシモヴィッチ・P.L.サヴァチュエ・C.S.サージェントなど）
3. 日本人学者による研究の時代（代表的な研究者：松村任三・白井光太郎・牧野富太郎など）



小野蘭山



伊藤圭介



松村任三



白井光太郎



牧野富太郎

小野蘭山は、享和元（1801）年に江戸幕府より採薬の命を受け足尾、中禅寺、男体山、赤沼、湯元、温泉ヶ岳などで薬草を採取し、その記録「常野採薬記（じょうやさいやくき）」を残しています。天保8（1837）年に刊行され、江戸時代に日光の火消しの任にあたった八王子同心 植田孟縉（うえだもうしん）が日光を紹介した『日光山志』には、日光の名産として薬品の黄連（おうれん）（セリバオウレン・ミツバオウレン）、直根人参（トチバニンジン）等が紹介されており、このほかにも多くの薬草があり、すべてを紹介できないと記しています。

伊藤圭介は、文政9（1826）年江戸で長崎出島のオランダ商館付医師 シーボルトに会い、多数の押し葉標本を送ったとされています。その後、実際に長崎のシーボルトのもとに遊学し、研修を受けています。その際に、伊藤らが日光で採集した押し葉標本を、シーボルトも手にしたのではないかと考えられます。

やがて、嘉永6（1853）年に浦賀にペリーが来航し各国との間に通商条約等が結ばれると、外国の植物学者が日本を訪れ各地で植物採集し、日光で採集された植物に日光産を意味する *nikoensis* *nikoense* の学名がつけられました。ロシアのマキシモヴィッチは、日光のメグスリノキに *Acer nikoense* Maxim、イチリンソウに *Anemone nikoensis* Maxim などの学名をつけ、フランスのサヴァチュエは日光のタカネヒカゲカズラに *Lycopodium nikoense* Fr.et Sav と名付けています。アメリカのサージェントは、日光のカエデの学名をもつメグスリノキの種子を入手するために日光を訪れ、日本各地で植物採集し、日本の森林植物を『日本森林植物誌』にまとめ出版しました。この中に、日光杉並木の写真や湯ノ湖のコメツガ林のスケッチが載っています。

明治10（1877）年に東京大学が設立されると、植物学の教育・研修が始まり松村任三、白井光太郎、牧野富太郎などが東京大学植物学教授となり、日光をフィールドとして日本の植物学を発展させていきました。

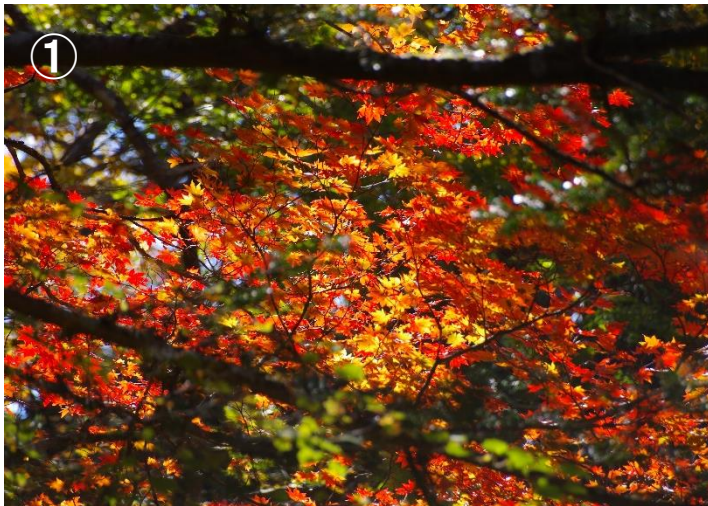
特に、松村任三は明治27（1894）年に日光で採集した植物を『日光植物目録』として刊行するなど、当時いかに多くの研究者が奥日光を訪れ、植物の研究を進めていたか、お分かりいただけるかと思います。

<次号に続く>

こんな紅葉の楽しみ方はいかが？

紅葉というと、遠目で見える一面の赤や黄色をイメージしがち。ですが、近づいて観察したり、視点をかえてみると、また違った楽しみ方がありますよ！

其の一、透かして見る。



- ① **カエデ**：紅葉といえばまずはカエデですね。黄色や橙、赤と色鮮やかなカエデは、晴れた日に下から覗いて見てほしい！全ての葉が真っ赤なものより多少まばらなくらいが、きれいなグラデーションに見えてオススメ。
- ② **ミズナラ**：黄葉というとカラマツ？いえ、ミズナラも忘れずに。小田代ヶ原や千手の森を歩きながら見上げると、視界いっぱいに黄金色が広がっているはず。葉が大きいので、光をたっぷり受けてきらめきます。

其の二、足元に注目する。



- ③ **カツラ**：秋の森の中で、どこからか甘い香りがすることがありませんか？その香りの正体、きつこの子です！丸くて淡い黄色の葉が重なる様子にも癒されます。落ち葉からも良い香り～。拾ってクンクンしてみましょう。
- ④ **カエデ（落葉）**：紅葉した葉は落葉してもなお、その美しさを見せてくれます。ふと足元を見るとこんな光景が広がっていることも。どことなく哀愁がただよいます。時々、歩いてきた道を振り返ってみましょう。カエデは種類によって色づき方や葉っぱの形も様々なので、見比べてみるのも面白いですよ！

其の三、接近する。



こっ、これは、一体
何の紅葉なんだ？！

- ⑤ **メギ**：葉のひとつひとつは小さいですが、近くで見てもこんなにまんべんなく真っ赤に染まっていることが分かります。カエデ類の透き通った赤とはまた違った、マットな色味ですね。多くはないですが、戦場ヶ原や千手ヶ浜付近などで見ることができます。トゲがあるので、観察の際は注意！
- ⑥ **ホザキシモツケ**：これ、実はホザキシモツケです。色づいた葉を真上から撮影したもの。ちょっと見方を変えただけで、別の物に見えて面白いですね。ホザキシモツケの美しさは花だけではないということがお分かり頂けるでしょうか？淡い赤と細かい葉脈、まるで一つのアート作品のよう…。
- ⑦ **ハクサンフウロ**：花がないと分かりにくいのですが、ハクサンフウロなのです。花の時期が終わった戦場ヶ原を歩いていると、足元に突然現れる赤！小さいのに存在感は抜群！無意識に近寄って観察してしまうはず。

番外編、きれいでも油断は禁物。



- ⑧ **ツタウルシ**：ビジターセンターの周辺にも多く、きれいに色づくツタウルシ。樹木をぐるっと真っ赤な葉っぱが包みまします。きっと多くの方がご存知、触るとかぶれるあのウルシの仲間です。そしてこのツタウルシ、ウルシの中でも最もかぶれる毒性が強いと言われています！あら素敵～と触れようものなら、敏感肌の方はたちまちかぶれてしまいます。

でも、ここまで鮮やかに色づく、ちょっと印象が変わりますよね。危険だけでなく、こんな美しい一面があるということを知っていただければ、ぜひ注目してみてください。

奥日光の静寂に浸る 蓼ノ湖

秘密の湖を、秘密のルートでご案内

10/6(Sun)

9:00-15:00

健脚者向け

対象：現地に集合できる 18 歳以上かつ**健脚の方**
(20 歳未満は親権者の同意必要)

集合場所：日光湯元ビジターセンター

定員：10 名 先着順 (要予約)

本来は冬しか入ることができない秘密の場所へ秘密のルートでご案内！ただし道は険しいので、山歩きに慣れた健脚の方向け。※特別許可を得て開催
ルート：湯元→蓼ノ湖→湯元 (行きとは別ルートで湯元へ戻ります)

参加費 3,000 円
(コーヒー、お菓子代含む)



※歩道外、急坂の上り下り、藪漕ぎの場面あり。
脚力に自信のある方のご参加を推奨します。

宝石箱や～！冬の星空観察

湯元の星の美しさをご覧ください！

11/9(Sat)

20:00-21:00

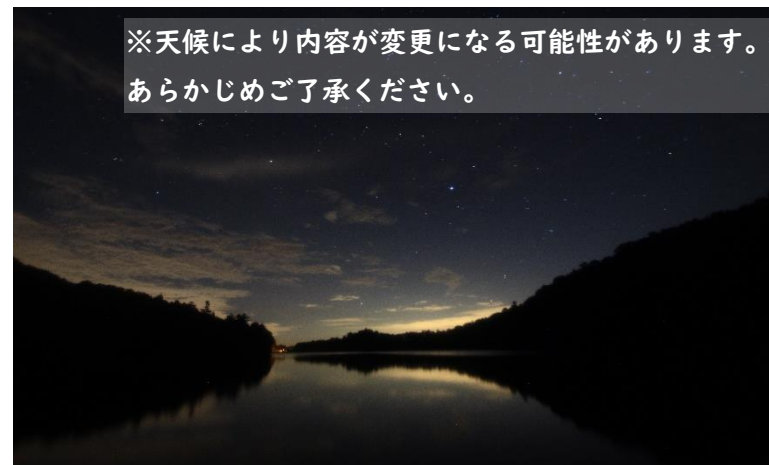
対象：年齢制限なし。現地に集合できる方。
(双眼鏡をご自身でお持ちの方はぜひご持参ください。)

集合場所：日光湯元ビジターセンター

定員：先着 20 名程度 **事前申込み不要**

標高が高い奥日光は、星空観察に最適！星について知ることができれば、寒い夜も楽しい時間になりますよね。ご参加の方は**防寒対策をしっかりと！**
ルート：湯ノ湖、湯元周辺

参加費 500 円
(小学生以下は無料)



※天候により内容が変更になる可能性があります。
あらかじめご了承ください。

修験の聖地を訪ねる 大多和宿

歴史、冒険好きにはたまらない人気イベント

11/24(Sun)

9:00-15:30

対象：現地に集合できる中学生以上の方
(15 歳未満は保護者同伴・20 歳未満は親権者の同意必要)

集合場所：梵字飯場跡駐車場 (参加要項で詳しくご案内します)

定員：10 名 先着順 (要予約)

大人気イベント再び！歴史ある地を、スタッフの解説付きでじっくり歩きましょう。冒険心をそそる(?!)藪漕ぎ歩きもあり！※特別許可を得て開催
ルート：梵字飯場跡P→大多和宿→志津宿→梵字飯場跡P

参加費 3,000 円



冬のバードウォッチング入門

バードウォッチングをやってみたい方、大募集！

12/15(Sun)

10:00-12:00

対象：年齢制限なし。現地に集合できる方。
(双眼鏡の無料レンタルもあります。)

集合場所：日光湯元ビジターセンター

定員：先着 10 名程度 **事前申込み不要**

葉っぱが落ちた冬は野鳥観察を始めるチャンス！ゆる～いスタッフがゆる～く観察のコツをレクチャーします。お気軽にご参加ください。
ルート：湯ノ湖、湯元周辺

参加費 500 円
(小学生以下は無料)



自然公園財団日光支部

TEL：0288-62-2461

FAX：0288-62-2378

お申込み先

お申込の際、平成 29、30 年実施イベントの参加の有無、氏名・年齢、郵便番号・住所・電話及び当日連絡先、交通手段をお知らせください。
(日程や内容が変更になる場合がありますので、予めご了承ください)